

## 大きく変わる学校

カナダの高校卒業資格もとれる  
「ダブルディプロマ(DD)コース」新設



## 国本女子中学校

国本学園は1942年に国本高等女学校として創立され、現在は幼稚園から高校までの総合学園です。このたび、カナダ Alberta 州教育省と提携し、中高6年間のグローバル一貫教育校として、従来とは別次元の女子校に生まれ変わります。2020年4月より、中学校内に「KAIS」(Kunimoto Alberta International School)を開校し、6年後(高校卒業時)には、日本とカナダの2か国の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマ(DD)コース」と、在来クラスの教育課程を発展させた「リベラルアーツ(LA)コース」を設置することになりました。

### 1. DDコース新設の理由

グローバル社会が到来した今日では、女性の社会進出が当たり前になってきています。こうした中で、カナダ Alberta 州と提携し、国本学園が培ってきた豊かな情操を育む教育と Alberta 州の教育プログラムの融合により、新しい時代の女子教育を目指すことにしました。Alberta 州の教育ビジョンである「自主的・主体的に自ら考え行動できる力」、「多様性を受け入れ、社会に貢献できる力」、「自ら探究し、新しい価値を創造できる力」は、新学習指導要領が2020年より目指すところと多くの部分で重なっています。Alberta 州は日本が目指す教育改革を10年以上前から始めている教育先進地域であり、3年に一度、世界的に実施されているOECDの学力調査(PISA)でも高い結果を残しています。Alberta 州がこうした世界トップ水準の教育プログラムを持っていることが、提携を決断した最大の理由です。

### 2. DDコースのメリット

英語力に関しては、ニアネイティブレベルである国際的な評価基準「CEFR・B2」、英検で言えば、準1級以上の資格が取得できるようになります。カナダ Alberta 州の高校卒業資格は北米はもとより世界で通用するものであり、卒業生はカナダはもちろん、米国をはじめとする世界各地の有名大学に進学しています。またカナダの高校卒業資格があれば、早稲田、慶応、ICUといった日本の難関大学の帰

国卒も出願可能で、一般入試ばかりでなくAOや推薦入試による進学の可能性が広がります。もちろん日本の高校卒業資格もありますから、他の受験生と同様に大学受験に挑戦することもできます。

### 3. DDコースの学習

カナダの高校卒業資格を取得するためには、もちろん高い英語力が必要です。DDコースは中1から英語力の高度化に向けた授業を行います。平日は7時間授業が中心で、英語は週12時間、このうち5時間以上は Alberta 州教員による4技能指導で、中学卒業段階で英検2級レベルの力を身につけるとともに、異文化理解プログラムや探究型授業を実施、中3ではカナダ研修も行います。高校では、日本の授業に加え、Alberta 州教育プログラムによるカナダ独自の科目も学びます。日本とカナダの両方の卒業資格を取得するため、高校の授業は週46時間で、平日は8時間、そして土曜午後や長期休暇中の集中授業などを考えています。全員が英検準1級以上を取得し、探究型授業やプロジェクト学習なども行うほか、カナダ留学や海外ボランティア活動も予定しています。

### 4. LAコースの学習

LAコースも Alberta 州教育プログラムを取り入れ、確かな英語力はもちろん、探究活動・問題解決学習など、ICT機器も駆使し、複合的な学びを展開し、多様化する生徒たちの進路を実現します。

## 大きく変わる学校

中学入学時に3コース、中3以降では  
5コースの新たな教育体制

### 昭和学院中学校



昭和学院は1940年に昭和女子商業学校として開校した学校で、戦後は新制の中学・高等学校に移行、幼稚園や小学校、短期大学も設置し、さらに1980年代には秀英高等学校・中学校を幕張新都心に開校するなど、学園の規模も大きく発展しました。市川市の中学校・高等学校は、高校段階で特別進学と総合進学の2コース制でしたが、創立80周年を機に2020年度から高校5コース、中学入学時点は3コースの新しいコース制を実施、「リーダーシップ」、「問題解決能力」、「コミュニケーション能力」、「多様性受容力」、「主体性」、「柔軟な思考力」の育成に取り組みます。

#### 1. コース制の全体像

中学入学時点でインターナショナルアカデミー・アドバンストアカデミー・ジェネラルアカデミーの3コース制になります。中3からはアドバンストアカデミーコースがさらにトップグレードアカデミー・アドバンストアカデミー・アスリートアカデミーの3つに分かれ、インターナショナルアカデミー・ジェネラルアカデミーとともに5コース制になります。高校からの入学生は5コースのどれかに入学、中学からの内部進学生とともに学びます。

#### 2. 各コースの内容と目標

インターナショナルアカデミーコースは、グローバルに活躍する人材育成の観点から、海外大学や国際教養系大学進学を目指します。日本人とネイティブの二人担任制や長期、短期の語学研修、英語でのアクティブラーニングに力を入れるとともに、海外大学進学を支える進学指導も充実させます。高3では英検1級レベルの英語力を身に付けます。

トップグレードアカデミーコースは東京大学をはじめとする最難関国立大学進学が目標で、少人数で一人ひとりに合わせたハイレベルな学習指導、幅広い知識をもとにした教科横断型授業が特徴です。探究学習や選択授業(マイゼミ)、進路カウンセリングや勉強合宿で力をつけていきます。放課後の自習室も完備します。

アドバンストアカデミーコースは、千葉大学をはじめ、難関国公立大学や難関私立大学の進学を目指

します。基礎から応用までを網羅した質の高い授業と、放課後や長期休業中の選択制講座、学習会を実施します。生徒一人ひとりの学力を高め、目標を達成するサポート体制を充実させていきます。

アスリートアカデミーコースは部活動に力を入れますが、同時に筑波大学、慶應義塾大学、早稲田大学などの難関大学進学も目指します。部活中心で学力は今一つ、というコースではありません。アドバンストアカデミーと同様、基礎から応用まで網羅した質の高い授業を行うとともに、部活動の時間の確保と、集中して活動できるよう、授業は6時間目までとし、別の場面で学習面のサポート体制を充実させます。

ジェネラルアカデミーコースは、多彩な内容を総合的に学ぶコースで、興味関心に合わせて探究学習や選択授業が受けられるよう、柔軟なカリキュラムが組まれます。自分の進みたい、学びたいことを見つけ、自分をデザインし、大学や専門学校進学など、次のステップにつなげていきます。

#### 3. コースの変更について

中3よりアドバンストアカデミーからトップグレードアカデミー・アスリートアカデミーコースが分かれますが、入学後の学力の伸長や、進路希望の変化に合わせて、インターナショナルアカデミー・ジェネラルアカデミーコースも含め、コース変更が可能です。また、進路希望が具体化してくる高2に進級する段階でもコース変更を可能とします。

## 大きく変わる学校

### 小野学園女子が共学化、校名変更

## 品川翔英中学校



小野学園女子中学高等学校は、1932年に創立された京南家政女学校がルーツです。戦後は新制の大井中学校、大井女子高等学校となり、1957年に小野学園女子中学高等学校になります。創立以来女子校で、時代の変化に合わせて大学と連携した理科実験授業やロボットプログラムを実施する一方、併設の幼稚園で先生体験を行う幼稚園ボランティアも行って、生徒の多様な進路選択につなげています。時代の要請に応じて2020年からは共学化、校名を「品川翔英中学高等学校」に変更して、主体的に行動できる未来志向の人間の育成に取り組みます。

### 1. 育成する生徒像に合わせた高校のコース

品川翔英中学高等学校は、「理系に秀でた生徒を育てる」、「国際(GLOBAL)志向の挑戦ができる人間を育てる」、「自分の頭で考え、自らの責任と矜持をもって行動できる人間を育てる」を使命とします。このため、従来までのコース編成を大幅に変更、理数選抜コース、国際教養コース、進学コースの3コース制とし、進学コースはさらにⅠ(特別進学)とⅡ(総合進学)に分けたクラス編成を行います。

理数選抜コースは全員特待生のコースで、プログラミングや、特に理系志向が強い男子生徒に見られがちなコミュニケーション力不足を補う自己表現講座を必修とし、1年次週43時間、2年次以降週35～45時間授業で、国公立大学や難関私立大学の理系各学部合格、進学することを目標とします。

国際教養コースは、読む、聞く、書く、コミュニケーションとしてのスピーキング、プレゼン等でのスピーキングの英語5領域の運用能力を高め、英検準1級レベル以上の力を育てるとともに、在学中の1年留学や、英語と世界史の授業は英語で行うなど、卒業後の進路は海外大学進学も視野に入れた学習を進めます。プログラミングも必修とし、理系の考え方もできる生徒を育成します。

進学コースは、基本カリキュラムはⅠ(特別進学)、Ⅱ(総合進学)とも共通ですが、授業進度や難易度に違いを設け、ⅠはGMARCHレベル以上の大学、

Ⅱは日東駒専等の中堅レベル以上の大学進学が目標です。プログラミングや自己表現講座、ICT利用授業なども必修とし、正課の授業だけでなく部活動などの課外活動や社会体験・ボランティア活動などの主体的な活動を通じて、進路の実現と社会で生きる力の土台を育成します。

### 2. 高校の教育内容を支える中学の指導

学則定員は100名ですが、当面は20数名×3クラスの少人数指導とします。数学は3年間で18時間、英語は19時間(うち半分程度はネイティブ)を充当、理科も実験や体験を多く盛り込んで、実証的な視点を育てます。実践的な英語力育成のため、2週間程度の英国語学研修を行います。それだけでなく日本語の正しい表現と深い理解を目指して日本語リテラシーの向上に取り組み、高校に内部進学した際は、各コースで学力面や様々な取り組みなどで、高校入学生をリードする存在に育成します。週35時間の授業で、先取り学習を進めますが、英数で学習にやや遅れが見られる生徒が出た場合には、土曜日午後や長期休暇中の特別補習などで、十分フォローします。

### 3. 部活動について

新たに男子サッカー、男女陸上、男女卓球、男女軽音楽部を設置するほか、バスケットボール、テニス、バレーボール、水泳、バトミントン、文化系各部は現行の女子の部活動に男子を受け入れていく予定です。

## 大きく変わる学校

共学化、国際バカロレアを導入

### 聖ヨゼフ学園中学校



ニューヨークに本部を置くカトリックの男子修道会アトメントのフランシスコ会が 1953 年に鶴見聖ヨゼフ小学校を設立したのが聖ヨゼフ学園の始まりで、1957 年には女子校として聖ヨゼフ学園中学校を、さらに 1960 年には高等学校を開設し、小・中・高校が揃いました。キリスト教主義を基本に学習指導要領を発展させた教育を行ってきましたが、学園全体で国際バカロレア (IB) のプログラムを導入することを決定、2020 年度からは中学を共学化して国際バカロレアのプログラムを学年進行で順次実施していきます。なお、IB の用語は次のページの解説をご覧ください。

#### 1. 国際バカロレアの導入

現代は国際人を育てるための全人教育のプログラムが求められています。聖ヨゼフ学園は教育方針として「様々な問題を他人事にせず、自らの課題として積極的に捉え、人々の真の平和と幸福を創り出す人を育てる教育を目指す」と示していますが、これは国際バカロレアの使命「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者を育成する」とよく一致することから、学園全体で国際バカロレアの導入を決定しました。まず 2018 年 1 月に小学校が初等教育プログラム (PYP) の認定校となり、2020 年からは中学を共学化、中等教育プログラム (MYP) の試行実施を経て、2022 年の認定校を目指します。さらに学年進行で共学化と IB の実施を進め、2023 年から高校も共学化、2025 年には大学入学準備課程にあたる DP 認定校となり、小・中・高一貫の IB 実施校になる予定です。

#### 2. 変わる教育内容、変わらない内容

小学校では IB プログラムの導入で、「探究の時間」が新設されました。教科の枠を超えた 6 つのテーマを探究するものです。IB では、学びで重要なのは「答え」だけでなく、「答え」にたどり着く過程も学びだ、と位置づけていて、教師が解答を教えるのではなく、児童・生徒が自分で考え、自分の答えにたどりつくことを重視しているからです。中学校に入

ってからの MYP でもこの点は変わりません。従来から、調べ学習や自由研究的な学びは重視してきましたが、教科横断でさらに強化することになります。教師が黒板の前に立って教える黒板授業も大切ですが、生徒の探究活動に一層磨きをかけていきます。

一方、従来から英語教育を重視、2017 年には高校に「アドバンスト・イングリッシュコース」を設置していて、国際情勢や社会問題を英語で話し合うなどの活動を行っています。DP では、一部の科目を英語で履修しなければならないこと、DP 資格取得者は海外大学に進学するケースも増えることが見込まれるため、高度な英語学習を中高全体に広げていきます。

また、高校 2 年から DP を開始する予定です。高校 1 年までに学習指導要領の必修科目をなるべく多く学ぶよう、カリキュラムを変更していきます。

#### 3. コース制について

学年進行で 2025 年から DP を開始する予定ですが、進路希望も多様ですから、むしろ日本の受験制度に基づいた大学進学希望者も出ると見込まれます。現在、高校段階では、「アドバンスト・イングリッシュコース」と「総合進学コース」の 2 コース制ですが、2025 年には DP を履修するコースと、日本の大学受験に対応するコースの、新しいコース制に移行する予定です。

# 国際バカロレア (IB) とは

国際バカロレア (International Baccalaureate 以下 IB) は、外交官や国際機関の職員の子弟に向けて、世界標準の大学入学資格認証と、そのための教育プログラムとして開発されたもので、インターナショナルスクールでは以前から実施されています。現在は大学入学だけでなく、初等中等教育や、高卒で就職する生徒向けのキャリア形成のプログラムもあります。IBの大学入学資格は、世界の多くの国々で幅広く受け入れられていて、日本でもIBのスコアを利用する大学が増えています。

## 1. IBの学習者像

より良い平和な世界を築くために貢献する人材の育成を目的としていて、10のめざすべき姿(学習者像)が定められています。探究する人 (Inquirers) / 心を開く人 (Open-Minded) / 知識のある人 (Knowledgeable) / 思いやりのある人 (Caring) / 考える人 (Thinkers) / 挑戦する人 (Risk Takers) / コミュニケーションができる人 (Communicators) / バランスのとれた人 (Balanced) / 信念をもつ人 (Principled) / 振り返りができる人 (Reflective)

## 2. PYP (Primary Years Programme)

幼稚園・小学校のプログラムで3歳~12歳が対象で、導入している幼稚園もあります。探究する人としての基礎教育や、バランスがとれた人間に成長するために基礎学力を身に付けるものです。実施国の教育課程が土台で、日本では学習指導要領の内容にIBの教育内容を付加します。日本語で実施が可能ですが、ぐんま国際アカデミーのように英語で実施する学校もあります。

## 3. MYP (Middle Years Programme)

中学と高校初期のプログラムで11歳~16歳が対象です。教科学習と並行して、社会の現状や自分と社会とのつながりを分析、理解し、深く考えたり挑戦する人間に成長することをめざします。実施国の教育課程が土台で、5年間のプログラムですが4年間でも可能です。このため、日本では中1~高1で実施する学校が多く見られます。日本語で実施が可能ですが、英語や、科目によって日本語・英語を使い分ける学校もあります。

## 4. DP (Diploma Programme)

高校後期課程の大学入学準備のプログラム。16歳~19歳が対象で2年間の課程です。自分の個性や強みを明確にして、進路を見極められる人間に成長することをめざします。言語、社会、数学などの6つの教科群から上級 (Higher Level) または標準 (Standard Level) の1つの教科を選択、さらに独自

科目の課題論文 (Extended Essay, EE、個人研究で日本語なら8,000字以上の論文を執筆)、知の理論 (Theory Of Knowledge, TOK、知識の本質を考え、知識の構築について探究する)、創造性・活動・奉仕 (Creativity/Activity/Service, CAS、芸術や身体的活動、ボランティアなどの取組) を履修します。一部に英語・フランス語・スペイン語のどれかに限定される科目もあり、日本では英語が一般的です。

## 5. DP資格

DPは世界統一の卒業試験が年2回実施され、45点満点のスコアで成績が決まります。24点以上で資格取得、23点未満は不合格です。DP資格は海外大学の入学資格になりますが、難関大学になるほど、ギリギリの24点では認められず、高スコアが要求されます。独自科目の成績が悪くても他の教科がよければ日本の高校卒業資格が得られるため、DP資格なし・高校は卒業、というケースもあり、より高スコアやDP資格取得をめざして高校卒業後にDP資格に再挑戦する生徒もいます。

## 6. 首都圏のIB認定校・予定校(幼稚園・インターナショナルスクールを除く)

東京都：開智日本橋学園中学校・高校 (MYP・DP)、玉川学園中学部・高等部 (MYP・DP)、東京学芸大学国際中等教育学校 (MYP・DP)、都立国際高校 (DP)、武蔵野大学附属千代田高等学院 (DP)、神奈川県：法政大学国際高校 (DP)、県立横浜国際高校 (DP)、聖ヨゼフ学園小学校・中学校・高校 (PYP・MYP 予定・学年進行でDP認定見込)、三浦学苑高校 (学年進行でDP認定見込)、埼玉県：昌平中学校・高校 (MYP・学年進行でDP認定見込)、市立大宮国際中等教育学校 (MYP・学年進行でDP認定見込)、筑波大学附属坂戸高校 (DP)、茨城県：開智望小学校・中等教育学校 (PYP・MYP・学年進行でDP認定見込)、茗溪学園高校 (DP)、群馬県：ぐんま国際アカデミー初等部・中等部・高等部 (PYP・MYP・DP)